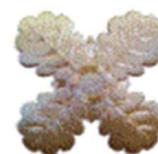


## お茶高-戸山高理系女子育成連携事業

### 「女性研究者にインタビューしてみよう」⑥



この事業は両校の生徒が組んで女性研究者にインタビューし、そこで得たものをまとめ、全校、全国の理系を志す児童、生徒のみなさんに向けて発信するプロジェクトです。

ここでは生物コース2年生2名が2024年12月20日、東京大学の佐々木成江先生にインタビューした記事をご紹介します。

お話を聞いた先生：佐々木成江（ささき なりえ）先生  
東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻 特任准教授、  
横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部 客員教授／学長特任補佐「ジェンダード・イノベーション担当」

はじめに佐々木先生がジェンダード・イノベーションや世界の現状についてお話をしてくださいました。

#### ～ジェンダード・イノベーションとは～

性差に基づくという意味の「ジェンダード」と技術革新を意味する「イノベーション」を組み合わせた造語で、米スタンフォード大学のロンダ・シーピンガー教授が提唱した概念である。科学技術分野の研究や開発の過程に積極的に性差分析を組み込むことで、新たな発見やイノベーションの実現が期待される。

#### 具体例

- ・オステオカルシンというタンパク質はオスの脂肪細胞を大きくして、メスの脂肪細胞を小さくするため、女性の肥満に特化した薬を開発できる可能性がある。
- ・交通事故の実験に用いるダミー人形は男性の縮小版で女性の体形や骨の弱さが反映されていなかったが、女性の体形を忠実に再現したダミー人形が作られ、安全対策の改善が行われつつある。

#### ～ジェンダー平等の現状～

2024年の日本のジェンダーギャップ指数は146か国中118位で、世界で見ると日本の女性参画への取り組みはあまり進んでいない。男女を一律に扱う「平等」ではなく性差に配慮した「公正」な取り組みが必要だ。単に男女の問題ではなく、マジョリティー・マイノリティーの問題でもある。多様性のある場のほうが多くの経験やアプローチから物事を考えられ、創造性が高いことがわかっている。

Q. ジェンダード・イノベーションの中で革新的だと思ったものを教えてください。

A. 雄と雌で痛みの経路だったり、いろいろなことが違ったりするのには驚きました。生物の新発見が性差の視点から出てくるのは今までなかったので、すごくワクワクします。

Q. ジェンダーについて考えるようになったきっかけを教えてください。

A. お茶大での教員時代は4割が女性でしたが、名古屋大に行くと女性の教員はたったの3%しかいなくて、強烈な違和感を覚えました。でも、その人たちはこれが普通だと思っていました。女性教員を増やす活動は自分の専門分野ではなく、研究業績にはなりません、後輩や娘の世代のために「やらなきゃ！」と思いました。

Q. ジェンダード・イノベーションを広めるためにはどうすればよいのでしょうか。

A. 友達や家族に小ネタのような感じでジェンダード・イノベーションの具体例を話してみるとよいと思います。例えば、男女に対して異なる作用を持つ薬についての話など、興味深い内容が多いので、ぜひ話してみてください。また、国の政策としてジェンダード・イノベーションを必修の授業にしたり、医学の国家試験に入れたりすることでより多くの人に知ってもらえると思います。

Q. 研究のやりがいを教えてください。

A. 新しいことを見つけたとき、興味が広がっていくときが楽しいと感じます。何かが一気に動くときの感覚や何かを乗り越えていくときの感覚と似ている気がします。「なんでこんなことが起きているんだろう」という気持ちがあり、真理に近づきたくて研究者になったので、いろいろなことがわかっていくんじゃないかというのはワクワクします。

Q. 高校生へのメッセージをお願いします。

A. 物事を動かすときに、異なる意見を持った人たちに自分の経験や感覚だけで話すと、感情的になり伝わらないことが多いです。統計的に分析したデータを用いて議論することで、互いに客観的に話せるようになり、突破口が見つかりやすくなります。様々な統計データが欲しいときは政府統計の総合窓口「e-Stat」を活用してみてください。

— 佐々木成江先生、ご協力ありがとうございました！ —

～感想～

・佐々木先生の目をキラキラさせて話す姿から、社会を変えたいという思いがひしひしと伝わってきて、自分も頑張ろうというエネルギーをいただきました。楽しかったです。(H.A.)

・「平等」ではなく「公正」な仕組みをつくるという考え方は多様性を尊重していくうえでとても大切な考え方だと思いました。私も今後、公正かどうかという視点をもって物事を考えていこうと思います。楽しく学びの多いインタビューでした。(A.K)

